

銅板紋章(チムシヤン)

儀礼用具(銅版紋章)(標本番号H8023、高さ/1.6cm 幅/60cm 奥行/91cm)

佐々木 史郎(ささき しろう)

本館研究戦略センター

銅板紋章は、北アメリカ北西海岸の先住民族のあいだで有名なポトラッチ儀礼に欠かせない威信財である。そこに描かれているのは神話に登場する動物が多く、家族の長が属する氏族の紋章として、その人物の系譜をあらわすとされるが、高価な銅で作られていることから最高の財産でもある。それをもつ首長は自分の名声を上げるために、多くの財産を一度に消費するポトラッチ儀礼で、この銅板紋章を惜しげもなく他人に譲ったり、ときには皆の前で壊したりした。

その作り方や文様の施し方は民族によって若干異なる。チムシヤンの場合には、扇形の上部と方形の下部の境をなす線と、その線の中央から真下に引かれた線の打ち出し方が鋭くないこと(彼らより南の民族では鋭角に鋭く打ち出す)、そして黒い

塗料で描かれる文様の輪郭に細い線が彫り込まれている点に特徴がある。銅板紋章が製作されるのは、ヨーロッパ人と接触するようになって銅が手に入れやすくなったから後の時代であると考えられる。この資料に使われている銅板は、カナダ産の鉱石を日本で精錬、加工したものである。

この銅板紋章には、制作者の氏族の紋章であるワシが描かれている。チムシヤンは四つの母系氏族にわかれていたことが知られており、それぞれワシ、オオカミ、ワタリガラス、シャチを紋章としていたといわれる。チムシヤンも近隣の諸民族同様、トーテムポールを立てる習

慣をもっていた。その機能と意味は銅板紋章とは異なるが、トーテムも紋章も人間の集団間の関係を動物や事物の対応関係であらわそうとすることについては共通している。つまり、そこに描かれる動物はともに「考えるに適している」から選出された自然種なのである。

